

チンゲン菜のカルテック栽培

(10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	周年栽培では、年2回(次の播種前に日数が1ヶ月以上とれる時に)、右記資材を全面散布後、土壌全層に混ざるように耕起します。 年1回の場合は堆厩肥をなるべく増やし、他の資材は同量とします。	ラクトバチルス 600g …保水性・排水性がよく、深く肥沃な土を作ります。 堆厩肥 1トン (なるべく2トン以上)、 年間2回 ※単作では播種1ヶ月前迄に堆厩肥などを投入して地力を作ります。 ※周年栽培では、堆厩肥は出来るだけ年2回に分けて投入すると地力が安定します。年1回の場合 2トン (なるべく4トン以上)を投入します。 硫安 60kg (複合肥料を使う場合はN成分:12kg) ※もし堆厩肥の量が少ない場合は 硫酸カリ20kg 等も追加します。 畑のカルシウム 40kg (土壌pH・Ca含有量により増量) ※チンゲン菜の好適pH範囲は広く(5.5~7.2)、酸性にも比較的強い作物です。しかし 栄養素としてのカルシウム要求量が多いので、深層までカルシウムを補給しておく と 高品質の収穫が続きます 。 實際上 土壌pH:5.5以下では生育が萎縮します。また根コブ病対策のためにpH:7.2程にしておくが良いとされていますが、徒長しやすくなります。 生育に良好なpH範囲は6.0~7.0が妥当です 。
地力作り後の施肥	全面施用してベッド作り・播種	畑のカルシウム 20kg (播種後、速効的に効かせる分のカルシウム) ※寒期などで、特に生長を速くしたい場合のみ、 硫安20kg も施用。 ただし7日以上おいて、播種時には土壌EC:0.3以下にすること。
周年栽培で、地力作りをしない作付けごとの施肥	全面散布して、耕し(土に混和し)、ベッドを作って軽く散水し、7日以上おいてから播種します。	硫安 60kg (ベッド内施肥の場合は 40kg) ※N成分:12kgですが、複合肥料は土壌を不安定にして、酸性化・濃度障害を起しやすく、品質も劣化しやすいので、 硫安を使ってください 。 ※カルテック栽培の土壌では7日後にはEC:0.3以下に安定します。 ※もし土中に微生物が乏しい心配のある場合は、 ラクトバチルス400グラム を米ヌカ30kgに混合散布し、播種までに20日以上おく。 畑のカルシウム 40kg (土壌pHや前作の状態によって増量) ※特に 高温期には (チッソは減らさずに) カルシウム60kg を必ず施用し、節間伸長や葉先枯れ・軟腐病を防ぎ、高品質な収穫を狙います。
育苗・移植栽培の場合	①播種後の灌水の時 ②発芽後の灌水の時 ③(長期)播種後25日 ④移植前5日(2.5葉) ⑤移植(定植)後の灌水	濃縮酵素液 (1000倍液) …発芽・発根を揃えます。 カルテックCa液状 (1000倍液) …苗を充実させ、徒長させない。2回。 メガデルトン・ネオスリー (1000倍) …肥料(N)の補給。肥切れさせない。 カルテックCa液状 (1000倍液) …苗を充実させ、移植後の生育を強く。 濃縮酵素液 (500~1000倍液) …根張りを揃って強くします。
(本圃)生育途中	(直蒔きの場合) ①播種後の灌水の時(播種後は過湿にしないこと) 本葉3枚以降 ②生育中 Ca定期散布、及び適宜の散布(状態により調節) ③仕上げの葉面散布	濃縮酵素液 (1000倍液) …発芽・発根を揃え、根張りを強くします。 ※特に根腐れ・根コブ・連作障害が心配なら10アール当り2~5リットルを灌水。 ※播種後~本葉4枚(間引き)までに、もし生育が悪ければ 酵素液 を灌水。 ※もし徒長が心配な場合は カルテックCa液状 (1000倍)灌水または葉面散布 カルテックCa液状 (500倍液)葉面散布、 7日(少なくとも15日)間隔 ※葉が厚く充実し、草姿は立ち、胴がくびれて、株が張ります。軟腐対策にも。 濃縮酵素液 (500倍液)葉面散布、(Caと交互に15日ごと) ※多雨時などの根腐れ、乾燥時などの葉先枯れ(チップバーン)、根コブに対しては、 原液2~10リットルの灌水または灌水(300倍前後)で回復させます 。 メガデルトン・ネオスリー (800倍液) …肥料補給。肥切れ・白サビを出さない (1)収穫10日前 メガデルトン・ネオスリー (800倍液) …鮮緑色を濃くする (2)収穫5日前 カルテックCa液状 (500倍液) …旨味を増し、 鮮度保持 も